風流宮路報設
四卷
へ13
1622
4

風流字治物語　付り　万年牡丹の物語と
　　名付て立花の小源氏

目録

第一　夏の源氏の中宿れし女房が働き
　　万年草といふ名花
　　特殊中ごれり合歓の門
　　一村の景花い
　　まぐしの男女と成り
　　幼子の死を報ず
　　幽霊の怪い美恵の方便

13 特
1622
巻 4

第二　初婚の意豆はいろ〻為い方

男は強剛なるべし女の口乃婚姻の〻系
偏愛性の物殺い男のことを懺悔
特に森の姫ごさひの夏歌解神さ彩枕

第三　ちとゞろ〻紙得〜去まゞ祝祝

真女の乃恵うは立ね古牧屋風
弦の強い事帝も傷小姫枕の中也
夫乃ゑり糸の男にゆゞ出中

（一）美のうゑ世れ中宮の女まゝが働さ

牝雞朝ときを鳴い必ず家に禍あり。婦人女賢ゝして牛馬
まわといへば。拙きゑ〻のごとく。況ん代い我子孫世に名をなんと。一
ときらい大切よりもして。都て出世の子はさわよ。禍ゝなきう。源太
京ハ和泉果ゝなりと入れ屋より剥ま。ゆゝ宮まゝ婦よれつさ今の
男に家うあるゝはてい家ゝ家ゝやゝなりとさせて結いれ。伯父さ
おゝ女。おの女ゞ彩ゝ子ゝさに。ちゝんてうゝと結いれしゝ婦ゝこの母
をゝ子ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ
とりて。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ
さゝに。一日世の家ゝしるれぬ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ

乃右衛門殿の御ふくさ神さまに成ぬ。女房はでのりの義
さをてぬうあつい姉さいてはまこもぬぐるなのおるようさ人か
なのくはしさて死さみよまき鍋のゆるるなりれうけぬはせうぶるぬ
をいつもそ蒸もそのあるよいとろあるひ出世の気乃さえ出る垂紙ようも
くはゆうにいちぶされる。母ごでいわで歌ちゆて。まゆいえ代をうし
げよありてでるるさて泣れい。えを代いきえてもさえ伝うて泣へて
ゆうしがやうくのかをとりげつらぬゆうぬがりゆすでるる紙いうう
ぬりおてでさるくのかされい新ぬ角きぬしてせあそい市更帰乃
はたるとうそでるさびるんづるが呂今のあやまりいあるへいせの親せるぬ
のあまりに耳きこ菓子ぬそのて答せて痒と炬いせ都てんあるる紙
うけしに日ぐ左れげ宝へんづるが手にいるあるよりんるされるぬ
ゆるいるるるぬるぬいて泣二度あのぬるるるるるいう

三角ぬるとぬつるぬるぬるるぬるるぬる

ようこさんと
そまくのちやうしゃ
わるさくのおまさまちまさと
伯父のえそまね

えそまくみ
ひさかた
とりかへ

ゑけまでも切腹して果てぬとぞ思ひ侍ぬ紙あげの人毒にあたり
情んで命を捨るいつもおなじひとごとなれども行てたに入りてこそ物をも
しめさるれ由緒いかくげあげよで明さういのもやと祈て申んぞく
おさ見し拙者は今猶仕りすぐにを力を張うきやうぞ者をこは供
いてさまだにさいごの申あをあれとそけぐあるーまる面へ一本は師匠
のかあのとぜてらるおりおお次のるまで書れ拙者の物を紙ぜあ
まーげ書ゑやとゑーぬけるとやぞて親おこーや競四ゑて物われうる
食のとあさ面へあそびすあそ後きーするのあるのくい物書ちさう
うるくものと先ひぐ思いとーれるひ彼代がのかるんそ大きれきる紙
にぐーゃーとちいいりのおたるぜまれそ兄の一本は師匠よやれるーゆと
のあ面いぐ彼あ代きーるとーゑけくとい拙さあるぜ兄さあいこ拙の
面のといんとするぐこーやくぐこかるのあでいあまいこ弄ものの一本は

師であるふうゑんてみなとゑるとぐはよのゑそこあいるいけいま
ぐあい限ぐ人決才代拙者しーるあづいてあるよこーゑ妹兄の浄土浄土
ちゃいそちら考ぐるるれい悪信ぐーあよい拙生の物ぐうぎの弟であよ
さるあぐそ競きうくあうぐひ彼あ代いうれるぐいりく毋がひの阿ふ紙よ
ぐ書代拙人の才芸あるぐ悪信るよ阿くーてけいせゑやぐうれるーぐひ拙るんて
ぐーあそ兄ひてあるいぐ彼ひあよ今ぐいらずも制面いぐぐーも完
完ゑ物阿ぜあいまーて完ぐこうきーい事いあい深ひ兄れ拙うけて
いるうでいあいぐゑ兄ひ毋るくい一本は師匠祈らぐ兄ん拙い
新面め本て意あ面ぐ浄拙太生のひすこ命ぐゑんるあい新民れ
拙の弟ぐゑるきて毋方ぐーゑいいこれまらぐんをすくふ義智乃
拙てそあるかねぐ代競拙ゑ代ぐあるこ拙の事れうれるさにあるこ感
ぐて紙ぐーぐるて一本ひるくい分ういりるあてこぐびなるこ紙

あるとき病さうの人あるべきがそれい大さなる蛇らがひつてゐまい
たくゝるれどもすでよ用心天皇いゝゆへよ海のく蛇ども来たりつゝぬて
まとうてとゞ結ゝいてうちられども蛇ども筋をれば又おそろしく
おそろしきものゝ一旦けつさいよあてもとゝろ一番法師ゞ持ちれば蛇ども
行てと一まゝいりゝふ海ざれどもいば程なそこゝ入りしこ海ゝ。
そのまゝ海利夜ゝてびあの世絶ゝとゝる。いゝるれ彩ゝかゝ乃ゝとゝ
切り世ゝ。ゝもゝるゝいやゝしゝいよりやゝ行ゝ海ゝ海ゝそゝゝゝゝゝ
ゝ代ゝそゝゝいまゝゝゝ奥ゝこゝいゝ者ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

二

神話の屋豆ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

月をけさは空にのこるのよ哉。答ぬうしろ姿と。袖の柱てさぐるのへ。
こゝやとを尋ぬる郭公。なとゝ乃ぶ林色。英綾織乃林色とうん
でそいく上哉。あつてれんまくつさぐの女ごゝ。ぬぐ。ひくりもいくぬ
へ。ゝてゝ。ゝてゝ。ゝてゝ

ゆえてまれとつういさるれいぶらんかめて。無縁のそぐへちとくしゆさ。
おきくいの女中れ盃。いやとにつくまてはうぐこけまこぐ。おあぐさみ
よれてまれしおしあ白のゆえとうけてまう所さぷさてにくぐ
うやあんゆうれ。女中ぎくひでとてあぐてくぐさう所せて。五代精
毫ぐこれいあつまく女中ぎくひ。とい毎ぐてぷみてそぐ。い私大分
女中ぐねれ。しうめうねよ毎うあうとせぐ。おまうこて女中の
合偶仕うそ。仕作よみつさめでぐさるいくぐそのおねな共に用
もうけられぐ。そむけそぐさるいぷづれてとぐれわをゆくぷ用づうゆよ
ふねぐ中とのおるうそのいまくぐ所ふいぷ。ぷやちるはふんぷ様ぐさ
ねと戸ぐぷ所屋の門を用ぷをいぐ。ぷるうれ打ぐがてんてとされと
ついぐそうやさりいあつちゆりうぐ。お用ようあつてちう夫は執ちるて
あくべいぐれそもあのゆれいぷやとりうあ女ぐ。ぷお盃おうよあて

りておるひぐはるされまやてぷちぐの盃様よはあるせあいはいはい
さうとい地女はもうんる様もあうりのかぐ。ぐのゆれ紙とれぐちては
きやつうよ四甲ろうきねゆうはわちるり紙打ぐ様はうさ肝門
とうく弱ふ紙ろせぐうあとぐ。ふらんぐ新をろうちうとうて出ふをれ
よいぐあるさうはうぐゆう。ぐ様の様ういうを出ねるけきバ。ぷ
ふうぐ者ちうようそも。荘厳のけつうか出厨ぐのゆれれのあいゆうるあ
で。有ぐういうぐるい。情乃ろを出様ちをされ。あよ振ちゆてりさ
ろれい神新面ぐ情をちねとつい分よあいるれおつけるうろへ。
かまんうそぐうくふ情ちうすよ。まうう夫出執ぐ面ゆてあつはるう
ちうぐ女ぐもちゆうくりうぐれ。情をちゆ分うぐ。いうゆきうそと
それくそれぐ浮ぐまの情ちうそて。ゆ様の情乃紙へ入ぐ。神新面の
私ぐ。ぐゆうげよ執ぐあうよれぐうやうくてらざうくいうのでり。

とれいづくとして情のみちでいこぶしたぶねでのくふちくにねぶで
ござるがごとくつてもも地女房ようけいせいじやあるくはるまでもはるのまち
たれもやはり盃のゆれとめあるくゆへこまかちくれねばふいてゆきふれ
雪とこのしたくいぬがごとくおそばせていざるしやう姫君のはあ
よりもうてがくと沈みとさくやきくれば姫君はびあしゆはやうけい
せいぶよいくいつくよあつて柳よりなまてゆくこしがさいくしいのやこと
ゆひ手目とは殘ぶんようく魚屋とちくへよこせれぶつくいたれ
方と親くちの鄙とひすびをれくよくれの風ごいたいせのよ紙よ
せるまつのれ女いかきくひあるくいつゆはとんはしゆくぶそうのけい
せいくやうぶする風をまるびいてのごいとられるぶくそひえかよ
てひ塩紙のもあ魚へ蕣物くいつ紙ふれかてやうこれあ井ねふ
くよけいせいのろやとばまあそまるびまれどよいゆ

ないゆくう。衣れ衣絵人形者ふ紙よあるる。ちまの風乃かたにうくいふれ
でいはまあくおいそぶつまるる。はは風を知てちくべ柳ふ紙ふひとれ。
箱ふ塩ふあひけいせいの中にはいたまくよいお女の所ようるつまる紙
を。ずれ入て湯まはてもはくてはくはぶ紙ふ。ちろせあぶくふ紙させ紙ふ
見紙紙。ちろせあぶくふ紙させ紙見よいちいさる
はぶ形さんさす。面待ねぐいい白紙ふてぶきまぶんはぶ白ちくちの
大姫面。黄紙のさくれをきくひそねきそそくふ動人ふす紙乃面世
はさ見勝の絵入ぶすもひろぶうふてぶさぶの筆ひぶぶうれおよ紙
ふつぶさふの衣裳きくふあしの浮おくふあげや
入の紙見ぶ浮ふのぶうれくやあ見ぶ情用ぶひをくちの世ちくふ柳
をたしさふそろ紙ちち。麻柳よりふれたの見と柳ふくしいちト
黄のをりとつさ出しぶうそふあくてのぶぶふそ紙ふさ。黄幸に

えるもちげうぶ。ゆうさけはあさ知つるもとてさねぐだ撥太郎の
身わるれたぐれをみてるぐしひ。大名神仏の学ひの何ぐさわ紙巻
ふるりくしたぐ。玄関つるさの紀藤よい。白紙つけどんぐ女郎乃
白いきうて身おわぐふるぐむるり。色い何よ出ていやされぬるる。
その何よいうるその女郎にわてるぐいられぬるり。おふ人の女中
ぐご。手ねくの表はまるびいそも。藤月やぐの男教よりあれ行つでハ
ゆくくと絵入でいまれ事。お乱ぐてれ出る角にるさびし紙一市
いいえ付の智さ女がけいせいぐるひるさるくそ。おまへをしてお郎
と同ど事でるいなぐく。それつひくそに去ゆるる。ぐそ乃人るくべ。
人くけいせいぐるひのえるもられさ。まぐ表るせんさぐ一市行
言あるるぐ。その焼よいう紙うて。おまへうるつてくるつ分ゆへ。
てきぐこるそれ乱紙のまれる紙わるいえのれるまくて男の

乱よいくるとこらめくはるる行飽ぐるやいねるれいぐ乃事のけい
をやめくま男れ乱紙のむうえんあれくとくられいぐ姫きく行ひ。
くりきをくへくにけの一人れ代接といくくるる男れるるわも事を
のまるる。行言せるゆあての殿ご。色くるひの保利ぐ事ゆへ。ゆう愛
えはー。退放くゆくにあいるるる。ぐていい行来ぐられひたしすんさ撥
なりや行くいどるせ出奴ぐ姫よゆ姫せるとんゆのんでゆるゆにたゆあるる
いゆゆるずれるれいぐ礼さくるをるゆでゆているるる行行るる
月行くくけいゆくのるるいるまくぐいー不にるりゆいる業くるるんるよかを
るれをるゆてるるくゆくに人るゆのまるひせいゆひ海ー雨
るるるくぐいるるるくまのまるひせいゆひ海ー雨
のとでいるるるるずやとるくく法てるるりるくいぐ無行ぐるの
ぐきるるくくて。大抵るれい家いるのるれるるれとぐるいや姫ぐるの

りしかけて行きしに。女房の風まで学びぬてあるあさましかりし程
なれいかりあるてやとしおさせてやとしおさ別きらめ。梅ばかりのさい田原
のみさらの太郎ごのいりて見ぬちさのおらぐらぐりあがり紙こしれ
ぶとつしえ分わる。衣紋ぐるの帽子並絵くそれさみやくふ石平
のよい女房とちゆうしくへどうくくけいせいぐるひより紙とろあげ
くにくふさ月そ色の袴。おめにうもるて面目ぬ。し帽いみのこね
西月れぐもせよない紙とまとやひ絵おとつすとそそぐらかくと
結そ内ぐらく。白帽ぐいくーさて帽を拵てんのるないとそそ内ぶいぬ
ぐくく。煙草く拵果て。死さく分にもわざれぐそ内での絵とやひ。
いぐくくとうへあまぬ。ちくくくしむすねぬ。おいくあ一と言んと言
神よとうつき。はるおきおとはくのかくく一ちよたにちち神ん言いと
てく。あまへとうふをし乳なるくよ。ふへ絵付いくなていぬ面もあれた

仰ざいくしひあれなくえーあ変いぬ太絵ぐ下屋変先そへ出仕せん
とそぐりに投とれまへ絵ものくお帽師中居おくたぐくくとれまい。
お帽角とあのまでおうくいんね教まこちぐ分にと見ぐあるけん
ちうあへいやりませあくぐおりけんでいやや白にお下屋へ内ゆうう

(三) さすぐ名をわ一大文ぐ蒐紙

女い民すーてぬの絵つきひくうそぬ角に虎のとい事ぐ出平の
ふ蒐池田風呂れゆやくいて帽とらうさ。大くこあーぐうすれ帽が
いくるあう。丸裸ぬて。帽の浦でとい巳てるくとんせる乳。河側と
くあれ拵つぐ出ばいあそくい同車にあて。ぬあいあうか成吉田の縁
ちのゆぐう蚊咎ぬ。ばくくん名車とぐあいて。ぬいくん牛さんなり
をせくくくく。吹くかぐの大さ。ぬ大さ。ぬくいる尾のあらくんのうくさ。
田平の文ぬ帽ぐ拵帽ぬくう。ぬ屋ぐあるくうぐ。ぬいくくひ立より一盃春で

五てんとげんへいよ伐を立てて。下屋敷とゆてとけとをゝ付まざといこ
あづらぜつるなりて非黒い縮ひのせゞい一間へ毛織敷とゝかてれかん。
どんなゆようせくさるこ。縫りてたい紙と云ろ。おゆ所ゆ居いお非さ四よ
ゆやとゆゝ風呂やとゆゝ。ふ蒲団の異もとうの紙が一面にちりば
かどんな蒲団そのそいて中強なされまゆねとゝいこゝやゝい乳紙
付れさよゆなかにのぞうみと縫ひにのふとゑれゝゝの全ゆねいて家
る貝紙ゆそゆやゞ来ら紙まくきゆ門ゆて車ちおりられゆやれゝ
をゝ。大坂の女房きとゝ。ゝつきて。花ふつるとちとやゝ
盗ちゝ思つて。ふ蒲ちよいきゞんるゆゝてゆやゝ出ゆ来れさ女い性ゝ
つきれさゝ。ゆとゝとゝるれゝ。家ちゞさゝでゞさゝ陽ちコレ山の弁厩さの
ゝ陽ちとゝゆれゝまそ中男やと。粹ちゆゝいろゝ中きふや縫ゞゝく
とゝ山の弁ゝゆゞゆゝれ女。ふゝゆゝふそふゆれゝ出ふ紙ゆれ紙ゝ

ゆやのつるゆる女のゆれと拍。こうやちとゆるゝとうけどいうるゆいとゞう
伝ちゆゝいゝとつけ。頬ちゝと出れる紙縫ひのふとゆゝのそひて
ゆそ非黒ふゆ。ゆひふゆ紙伝ちるゆそ。毛織ちゝてのそひて足
ゆゝゝ。この弁ちゝて。ふ蒲ゞゆゝ物ふするい紙ちふ中まそなゝふる
そゝふゆれゝ。大きゝ肝を注ゞ。拍い紙追放ふゆひゝとゆゞもゝゆ紙
なゝ男ちとゝて。ふ蒲ゝゝるゆそれゆやと一ゆふ縫陽ふゆて。同車の中
のゝちゆゝふとふゝ。人でゆこの高はゆゝ。ゝゆれゞ縫のゆゝゆんゞう
ふゝて。ゝゝ出ゞゞ。縫ひゝゝそゞんだゝんでゞせるのゆい車ゞゝ
ゝ蒲ふより女中ゞ縫ふゝゝゝ。厩のお体ふゝゝゞ浴の間ゝひゝゝゝ紙
厩ゆゞいゞゝゆゝ。ゆゝいゝゝい厩風とお注ふいゝゝといゝゝ。毛織出て。
おひゝゝお体ゝゆゝゝて注ふいゝゝ厩入でゝゆゝれふ
すかゝゝゝれゞゝゝ紙ゞゝ紙ゞゝ弁ゝゝゝてゞゝゝおゝんゝれさ

女中がポツ〳〵出て。それいくゆやねるにてもいぶかるまでに。
家ごゝろこの山の井あるこゝは一所あるよ。お休みあるべくお座の間にすぐやう。
新屋ゞあるべくこゝいぶ。血流しひゞくるゝ。てゝいるのも新屋はこざるゞ半新
屋ぢや。高はてあやうるあくにまでも泊てあげ西せみる間あのみる所へ。
出合茶の宿いつさわゆく。仮契新屋い抱て番いつきねく。祝つ行れて
くこゝといふ人ぢやと奥へきて約めて血流者よて後いてどこゝ出てん
出てかゝる身あれば。行ぢへも出れねば。えさりあるゝ働ぎゝんてぢかれ
やる。血流ゝ者ポ。脈のこゝりく自のこゝ。行ぢへ行てこの井といふ女よ。後
ひはよい新屋ゞあるこゝ行よ。殿さ血流ポつまゝ泊てごゝんてゝるこゝるいあり。
ゝあんよござれゝ。家ごゝんで来てゝれゝひそゝにさゝやさ行ぢへやまゝれ
ばゝりく山の井一ばけまゝ。どんな所ぢつまゝごゝて後よへこゝる。
血流ゝとゝ。ごゝやゝ高はあゝ。ちゝと所ゞつぶれゝ。見ゝはつれのはゝる

まゝ紙あけて出てば一段あゝひゝあるねゞ。ゞ。ゝ結ゝゝゞゞゞゝ。
てねゝこゝゝ伝ゝゝ。ゝ。ゝ。

仕あらとゝ云こゝ毎に御悔みをよろこびやゝ紙きのんでおはてとか
めて御ひはゆやとのくうれとらにをついさへばらぶんとゝふ者のこゝと
おやゝこゝそのゝ名ぬ乃ゝ之ゝ紙ゆゝてぬすんでゆゝこゝろや紙屋のいゝつ。
和の男に肌をゝられゝ名申ハゝそよゝぶゝめゝゝきゝ大ゝそれゝゝ事とゝゝひゝ之
腐敗させゝとゝゝゝ名申ハゝきゝゝくゝいゝぞゝやゝその仕ゝくゝいゝるゝとゝすゝいゝこゝゝ
ゝゝの名申ゝゝハゝ紙ゝこゝのゝ仕ゝ名ゝゝきゝゝゝくゝゝるゝのゝらゝでゝゝゝゝゝ。ほゝゝゝゝ紙
ゝゝとゝゝてゝんゝゝんゝゝゝゝゝ